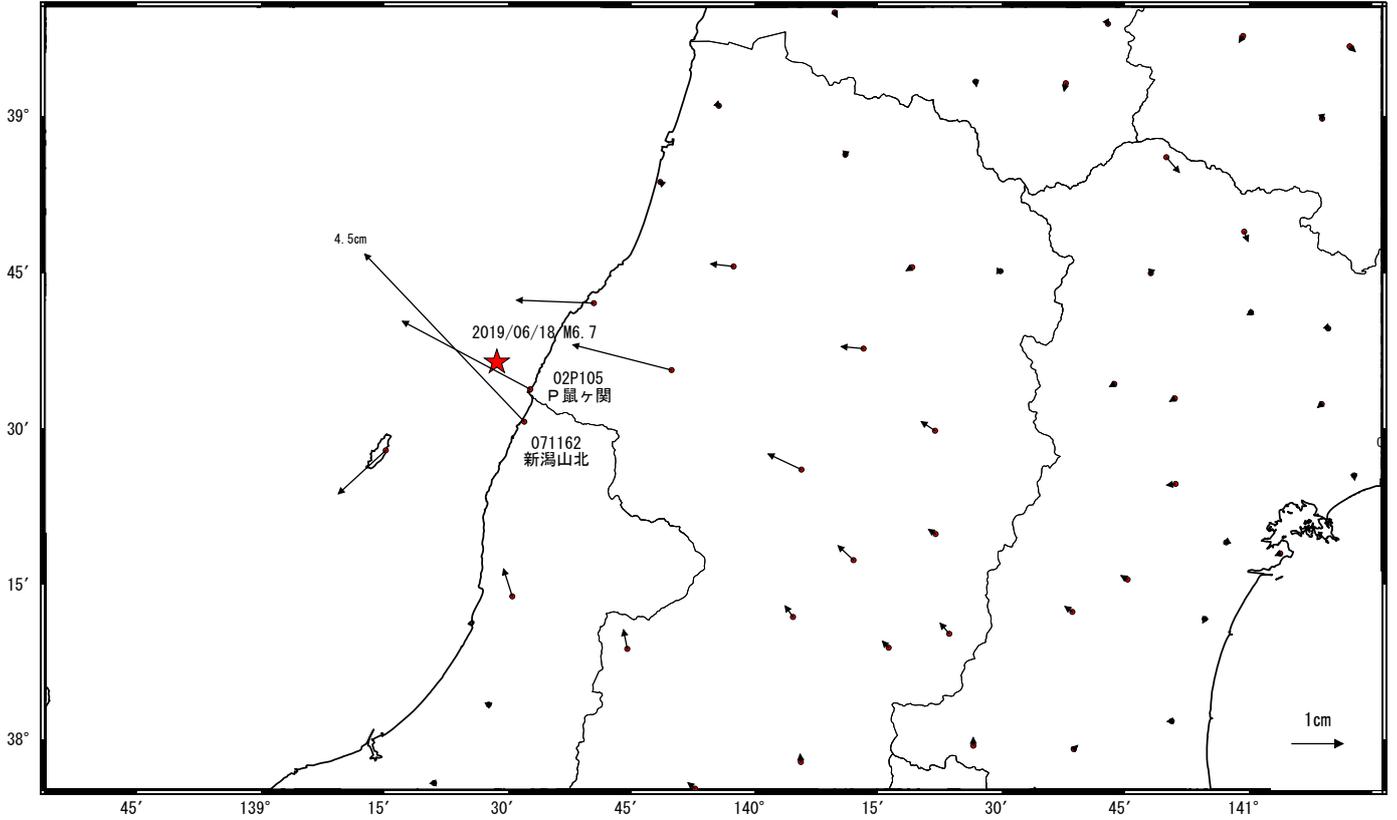


# 山形県沖の地震(6月18日 M6.7)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い地殻変動が観測された。

## 地殻変動(水平)

基準期間: 2019/06/11~2019/06/17 [R3: 速報解]  
比較期間: 2019/06/19~2019/06/24 [R3: 速報解]

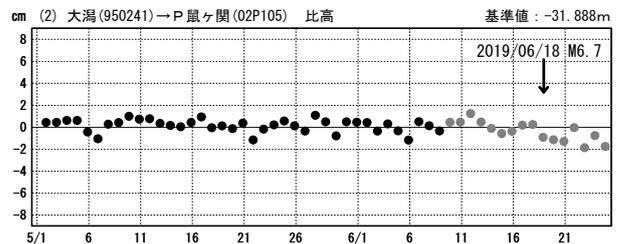
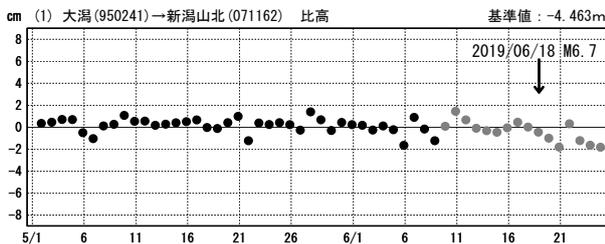
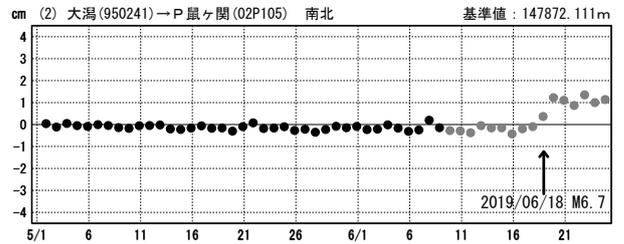
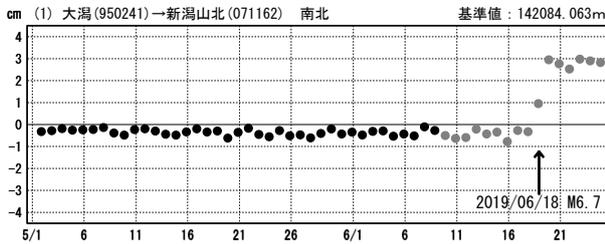
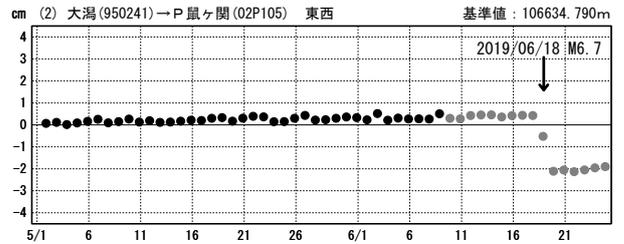
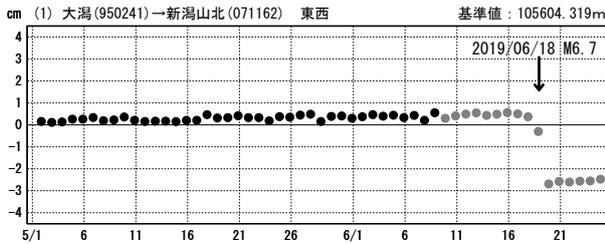


☆ 固定局: 大潟(950241) ☆ 震央

## 成分変化グラフ

期間: 2019/05/01~2019/06/24 JST

期間: 2019/05/01~2019/06/24 JST



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

# 山形県沖の地震（6月18日 M6.7） 「だいち2号」による SAR 干渉解析結果

ノイズレベルながら衛星から遠ざかる変動が見られます。

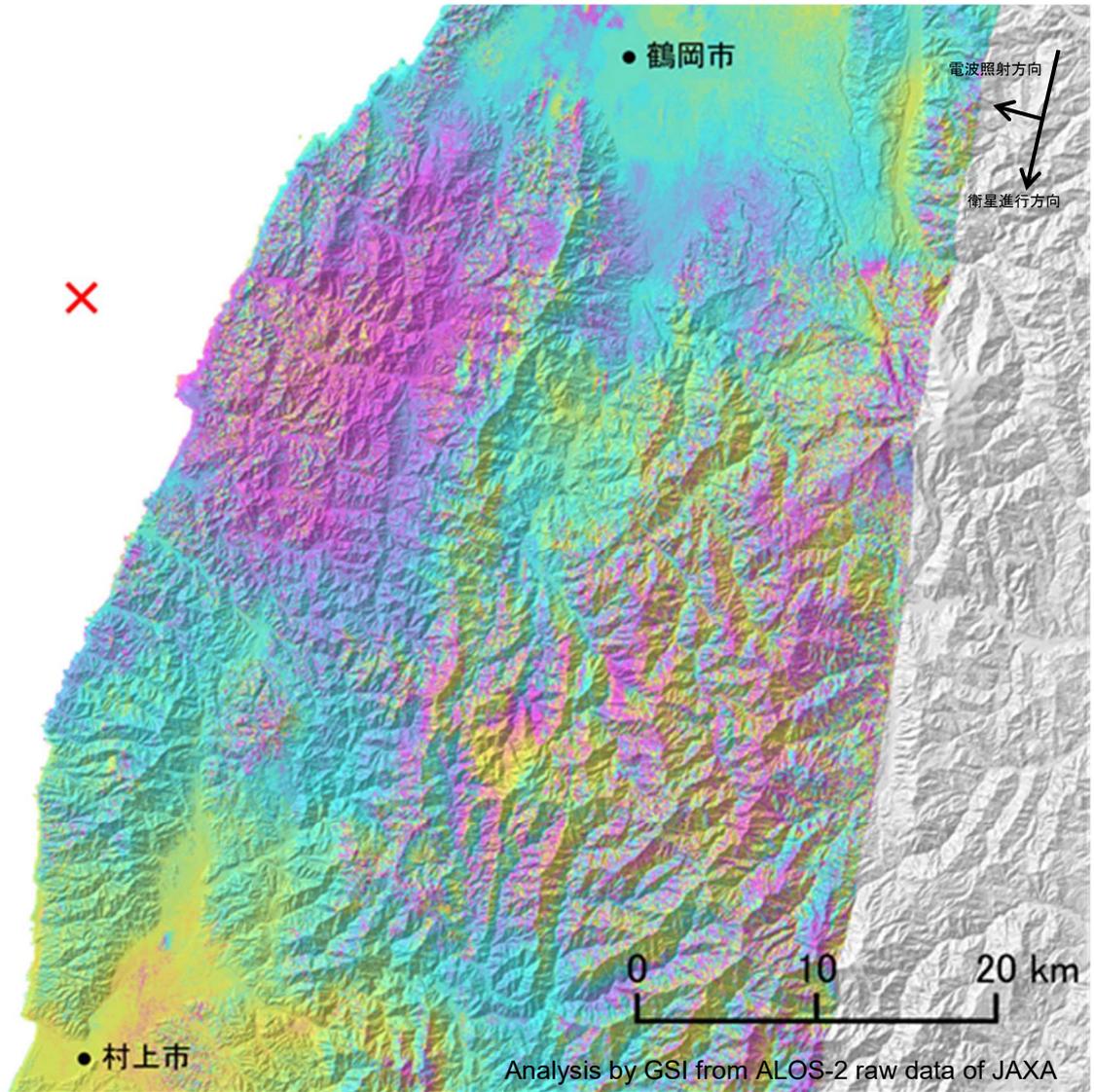
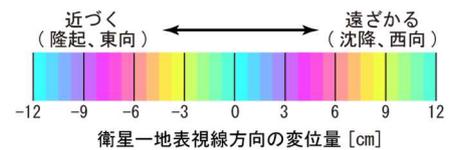


図1 2015年11月28日～2019年6月22日 11:35 衛星進行方向 南行、電波照射方向 右、入射角 50.7°

✕ : 震央 2019/06/18 22:22 深さ 14km M6.7 (気象庁一元化震源)



## 山形県沖の地震の震源断層モデル（暫定）

GNSS で観測された地殻変動を基に推定された震源断層モデル（矩形断層一様滑り）の特徴は以下の通りである。

- 1) 北東－南西走向で東に傾き下がる低角の断層面上における逆断層運動が推定される。
- 2) 推定された断層面の水平位置は、震源分布と整合している。
- 3) 上端は深さ約 8 km（断層上端）に位置する。
- 4) 推定されたモーメントマグニチュードは 6.4 である。

### 東傾斜を仮定したモデル

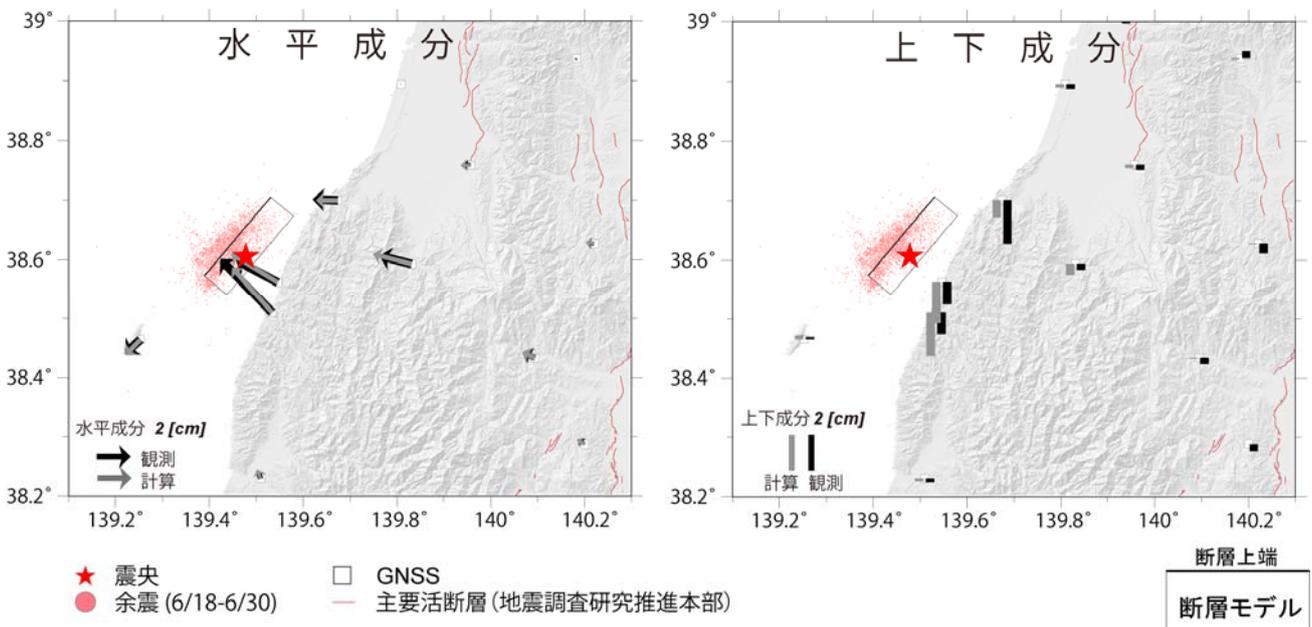


図 1 東傾斜を仮定した場合の震源断層モデル。

(左) 水平成分、(右) 上下成分。★印は震央、点は余震分布（気象庁一元化震源を使用）。  
 矩形は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。

表 1 東傾斜を仮定した場合の震源断層モデルパラメータ

経度 [°]	緯度 [°]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [°]	傾斜 [°]	滑り角 [°]	滑り量 [m]	M <sub>w</sub>
139.389 (0.031)	38.574 (0.017)	8.2 (2.1)	19.2 (5.0)	6.3 (3.0)	40	29 (7.4)	99 (4.7)	1.2 (0.2)	6.4

※ 1 矩形断層 1 枚での推定結果。位置は断層の左上端を示す。( ) 内は誤差を示す (1σ)。

※ 2 断層走向は震源分布を基に固定

※ 3 剛性率は 30GPa を仮定